

令和 7 年度

事業報告書

令和7年4月1日～令和8年3月31日

公益財団法人 音楽鑑賞振興財団

令和7年度 事業報告書

目 次

I 学校における音楽鑑賞の指導に関する研究及び指導法の普及事業（公益目的事業1）	3
1 研究活動	
（1）研究委員会による鑑賞の授業づくりの研究、及び講習会への参画	
（2）鑑賞の授業づくりに関する調査	
2 普及活動	
（1）鑑賞の授業づくりに関する講習会の開催	
①ONKAN音楽科教育セミナー2025	
②ONKAN授業づくりセミナー2025	
③ONKANインターネットセミナー2025	
（2）研究大会・講習会等の後援	
①鑑賞の授業づくりについての講習会への講師派遣	
②ICT活用のための講習会への講師派遣	
③オーディオ機器貸出	
3 出版・情報発信	
（1）季刊誌「音楽鑑賞教育」の発行	
（2）書籍、映像資料の発行	
（3）ウェブサイト「ONKANウェブネット」の運営	
4 広報活動	
（1）賛助会員「音楽鑑賞教育マイスター会員」の運営	
（2）各種メディアによる広報	
（3）ONKANフェア2025	
（4）学会、研究大会での広報	
II 音楽鑑賞に関する論文募集による助成事業（公益目的事業2）	7
1 助成研究募集	
2 賛助活動	
III 音楽鑑賞活動の普及事業（公益目的事業3）	8
1 財団保有の音楽関連資料の活用	
2 財団主催コンサート、音楽講座の開催	
3 財団後援・協賛コンサート	
4 松本記念音楽迎賓館を使った音楽活動の推進	
5 チェンバロ音楽普及の支援	
IV 世田谷区岡本緑地の環境保全事業（公益目的事業4）	10
1 岡本地域緑地の保全活動	
2 緑地保全の啓発活動「みどりの講座」の実施	
V 松本記念音楽迎賓館諸施設の貸与事業（収益事業）	10

I 学校における音楽鑑賞の指導に関する研究及び指導法の普及事業 (公益目的事業1)

1 研究活動

(1) 研究委員会による鑑賞の授業づくりの研究、及び講習会への参画

- 令和7年度は、令和6年度の後半に着手した研究テーマ「学習内容にふさわしい教材の選択と授業展開の開発」について、教材研究に基づいたよりよい授業づくりの具体例（事例）の検討を進めた。
- 「ONKAN音楽科教育セミナー」のワークショップ、「ONKAN授業づくりセミナー」のグループ研修について、具体的な内容を立案し、研究委員が講師を務めた。

回	開催日	検討内容
第1回	小学校部会 5月24日(土) 中学校部会 5月31日(土)	・「学習のまとまり」の題材案の検討 ・小中のつながりにおける事例の検討 ・「ONKANセミナー」研修内容検討
第2回	小学校部会 6月29日(日) 中学校部会 7月13日(日)	・「学習のまとまり」の題材案の検討 ・小中のつながりにおける事例の検討
第3回	小学校部会 8月31日(日) 中学校部会 9月20日(土)	・「学習のまとまり」における事例の検討 ・小中のつながりにおける事例の検討
第4回	小学校部会 9月28日(日) 中学校部会 11月22日(土)	・「学習のまとまり」における事例の検討 ・小中のつながりにおける事例の検討
第5回	小学校部会 1月31日(土) 中学校部会 1月24日(土)	・「学習のまとまり」における事例の検討 ・小中のつながりにおける事例の検討
第6回	小学校部会 3月15日(日) 中学校部会 3月 1日(日)	・「学習のまとまり」における事例の検討 ・小中のつながりにおける事例の検討

研究委員一覧 ※五十音順・敬称略

部会	名前	所属・役職
主管	藤沢 章彦	財団理事／元国立音楽大学教授
小学校部会助言担当	石上 則子	元東京学芸大学准教授
小学校	石井ゆきこ	東京都港区立芝小学校主任教諭
	井上 奈々	東京都千代田区立千代田小学校主任教諭
	清水 達也	東京都港区立麻布小学校指導教諭
	館 雅之	神奈川県横浜市立太尾小学校校長
	和智 宏樹	山梨県上野原市立上野原小学校教諭
中学校	安部 文江	長野県小諸市立小諸東中学校教諭
	小川 大輔	広島県三原市立幸崎中学校教諭
	勝山 幸子	東京都港区立高松中学校主任教諭
	高道有美子	東京都世田谷区立芦花中学校主任教諭
	水谷 愛	埼玉県川越市立鯨井中学校教諭

(2) 鑑賞の授業づくりに関する調査

学会や研究大会等に参加し、各地で実践されている鑑賞の授業や、授業で今後必要とされる ICT教材、教具に関する情報収集を行った。

2 普及活動

(1) 鑑賞の授業づくりに関する講習会の開催

① ONKAN音楽科教育セミナー 2025

学校教育や音楽科教育の今日的な課題や情報の共有、当財団の研究成果の発表、音楽に関わる内容など、音楽科教育や鑑賞の授業づくりに役立つ内容の講習会を開催した。

教員が参加しやすいように、駅に近い会場で、夏休み期間に1日開催した。講習時間は全5時間で、4つのプログラムを用意し、さまざまな視点で受講できるようにした。

日 程：8月18日(月) 10:00～16:00

会 場：大田区民センター アプリコ 小ホール

受講者：50名(定員50名)

〈内訳〉小学校教員 31名、中学校教員 12名、高等学校 3名、その他 4名

内 容：

I 講演「鑑賞における『深い学び』を考える」

II 鑑賞の授業づくり講座「考えよう！学習評価 ～鑑賞授業の評価方法や見取り方～」

III 助成研究発表「鑑賞力を高める指導法研究

～音楽作品と物語文の味わい方の共通性に着目して～」

IV 音楽講座「日本の歌曲を10倍楽しもう！ ～音楽の特徴と表現の工夫～」

講師、発表者：

河合 紳和(文部科学省教科調査官)

〔I 講演〕

館 雅之(神奈川県横浜市立太尾小学校校長)

〔II 鑑賞の授業づくり講座〕

清水 達也(東京都港区立麻布小学校指導教諭)

〔II 鑑賞の授業づくり講座〕

安部 文江(長野県小諸市立小諸東中学校教諭)

〔II 鑑賞の授業づくり講座〕

西田 治(長崎教科教育研究会モデラート代表、長崎大学准教授) 〔III助成研究発表〕

小川 明子(アルト)

〔IV音楽講座〕

松岡 貴史(ピアノ、作曲家・鳴門教育大学名誉教授) 〔IV音楽講座〕

監 修：藤沢 章彦(財団理事、元国立音楽大学教授)

後 援：全日本音楽教育研究会

受講料：5,000円 ※マイスター会員は2割引

② ONKAN授業づくりセミナー 2025

少人数のグループ研修で、鑑賞の授業づくりについてじっくり考え深められるように、冬休み期間に1日開催した。参加者の課題を切り口に意見交流し深めていった。

日 程：12月26日(金) 10:00～17:00

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟 小練習室

受講者：16名(定員20名) 〈内訳〉小学校教員 10名、中学校教員 6名

内 容：鑑賞の授業づくりを深める内容

講 師：和智 宏樹(山梨県上野原市立上野原小学校教諭) 〔小学校グループ〕

高道有美子(東京都世田谷区立芦花中学校主任教諭) 〔中学校グループ〕

監 修：藤沢 章彦(財団理事、元国立音楽大学教授)

後 援：全日本音楽教育研究会

受講料：6,000円 ※マイスター会員は500円

③ ONKANインターネットセミナー 2025

8月に開催した「ONKAN音楽科教育セミナー2025」から、1講演を配信した。

日 程：2026年2月9日(月)～2026年3月2日(月)

受講者：30名

〈内訳〉小学校教員 11名、中学校教員 12名、その他 7名

内 容：講演「鑑賞における『深い学び』を考える」

講 師：河合 紳和（文部科学省教科調査官）

受講料：1,000円 ※マイスター会員は2割引

（2）研究大会・講習会等の後援

① 鑑賞の授業づくりについての講習会への講師派遣

鑑賞指導法の基本的な内容や、書籍「よくわかる！音楽鑑賞の授業づくり①②」の内容を扱い、鑑賞の授業展開、授業のあり方の改善を目指して、各地区の音楽研究会等が主催する講習会に講師を派遣した。当財団研究委員が講師を務め、講師料は同財団が負担するほか、講師旅費交通費も負担した。（1件／参加人数：約20名）

1月7日 岩手県特別支援学校音楽教育研究会

② ICT活用のための講習会への講師派遣

各地区の音楽研究会等が主催するICT活用の講習会への講師派遣については、応募がなく、実施には至らなかった。

③ オーディオ機器貸出

研究大会・講習会等で使用するオーディオ機器の貸出を行った。（1件）

1月23日 東京都小学校音楽教育研究会 山の手Bゾーン大会

（大会当日の公開授業および事前授業）

3 出版・情報発信

（1）季刊誌「音楽鑑賞教育」の発行

- 季刊「音楽鑑賞教育」を年4回（V o l . 6 1 ～ V o l . 6 4）発行した。
- 内容は、毎号を完結型とすることで、バックナンバーとして購入できる特集を企画した。
- 特集の内容は、より実践的な「授業づくり」について、いろいろな角度から取り上げ、読みやすい、わかりやすい誌面づくりの工夫を図った。
- 4年目の企画となった「音楽探究」「私の Recipe」では、引き続き職歴の浅い教員にも鑑賞の授業づくりの参考となるよう展開例と指導のノウハウを提供した。
- 新連載「音鑑研究委員の先生による鑑賞授業STEP UP」というページを新たに設け、研究委員会がこれまでに大切にしてきた鑑賞の授業づくりのポイントなどについて、毎号研究委員の中から執筆者を変えて、事例とともに掲載した。
- 各号の具体的な内容は、編集会議を開催して検討し決定した。

V o l .	通 巻	発 行 日	特 集 「音楽の授業づくり」
6 1	5 6 5 号	4 月 1 日	味わって聴く 鑑賞の授業展開
6 2	5 6 6 号	7 月 1 日	地域とつながる多様な音楽授業
6 3	5 6 7 号	1 0 月 1 日	学びが深まる 教材研究
6 4	5 6 8 号	1 月 1 日	他教科等との関連で 学びを広げ深める

編集委員一覧 ※五十音順・敬称略

名 前	所 属・役 職
石上 則子	元東京学芸大学准教授
大熊 信彦	東邦音楽大学特任教授
藤沢 章彦	財団理事／元国立音楽大学教授
本多佐保美	千葉大学教授
山下 薫子	東京藝術大学音楽学部教授

(2) 書籍、映像資料の発行

令和4年度の助成研究募集入選者による2年間の研究成果をまとめた報告書を書籍として発行した。

○音楽教育研究報告第36号

「探究的に音楽を鑑賞し、質的な深まりと自分なりの価値を見いだす授業の研究
～多様な対話を通して～」

井上 翔太（広島大学附属三原中学校）

(3) ウェブサイト「ONKANウェブネット」の運営

令和5年度にリニューアルを行い、ユーザビリティが向上したウェブサイト「ONKANウェブネット」を通して、月刊「音楽鑑賞教育」バックナンバー記事など、音楽教育に関わる情報を配信した。

4 広報活動

(1) 賛助会員「音楽鑑賞教育マイスター会員」の運営

令和6年度に引き続き「音楽鑑賞教育マイスター会員」を運営した。季刊「音楽鑑賞教育」の配付、インターネットによるバックナンバー記事の閲覧、主催講習会の割引、鑑賞教材のストリーミング配信など、サブスクリプションとしてのサービスの充実を図った。

特に「ONKAN授業づくりセミナー2025」に参加しやすくすることで、熱心な教員にセミナーと会員プログラム両方への参加を促す相乗効果を図った。

(2) 各種メディアによる広報

事業案内パンフレットを制作し、主催講習会や後援事業を通しての配布や、教育研究機関への送付を行った（2,500部）。

また、ニュースリリースの配信や、メールマガジン（登録者3,400人）、ウェブサイト「ONKANウェブネット」、SNSを通してタイムリーな情報発信を行った。

「ONKANウェブネット」については、SEO（検索エンジン最適化）対策を意識したページ制作を行った。教員が検索する際にONKANウェブネットが上位に表示されることで、そこから講習会情報や出版物情報への誘引を図った。また、季刊「音楽鑑賞教育」の新連載「音鑑研究委員の先生による鑑賞指導STEP UP」をONKANウェブネットにも掲載し、研究委員が講師を担当する主催講習会や講習会講師派遣事業と関連付けることで、それらを広くアピールした。

(3) ONKANフェア2025

対面での広報活動強化の一つとして、広報イベント「ONKANフェア2025」を開催した。財団事業を丁寧にプレゼンテーションするとともに、展示販売ブースを設け、出版物を手にとって見ていただく機会を設けた。

あわせて、鑑賞の授業づくりに関する講座を無料で開催した。鑑賞指導に造詣の深い講師を招聘し、教員も児童生徒も楽しく取り組める鑑賞授業のあり方をテーマとすることで、特に職歴の浅い教員の関心を喚起し活性化することを図った。

日 程：6月14日（土） 13：30～16：00

講 師：江田 司（元名古屋学院大学教授、元当財団研究委員）

対象者：教員及び音楽教育関係者、教職を目指す大学生・大学院生

参加者：69名（申込84名）

参加費：無料（要メールマガジン登録）

（4）学会、研究大会での広報

全日本音楽教育研究会全国大会佐賀大会や学会等において、大会冊子等に広告を掲載した。（9件）

また、出展を行い、教員と直接コミュニケーションを取り事業をアピールした。（3件）

Ⅱ 音楽鑑賞に関する論文募集による助成事業 （公益目的事業2）

定款第45条（選考委員会）の規定に基づき、第4条に掲げる研究助成の対象の審査及び褒賞に関する事項を審議する選考委員会を設置している。令和7年度の選考委員会は任期2年の2年目となり下記3名の方に委嘱した。

選考委員一覧 ※選考委員長を除き五十音順、所属及び役職は令和7年10月現在、敬称略

名 前	所 属・役 職
辻村 哲夫	選考委員長／元文部省初等中等教育局局長／財団常務理事
河野 正幸	聖徳大学名誉教授
嶋 英治	元福島大学特任教授

1 助成研究募集

学習指導要領の改訂やGIGAスクール構想などにより教育を取り巻く環境が大きく変わっていく中、応募件数や応募内容のさらなる拡充を目指し、新たな形での助成事業を検討した。

具体的には、小学校、中学校、高等学校の教員が応募しやすく、また応募された内容を社会に還元しやすい事業の在り方を模索し、令和8年度から募集を開始する。

令和7年度は新事業の準備検討を行うため、新たな助成研究の募集は休止した。

2 賛助活動

全日本音楽教育研究会、公益財団法人日本オペラ振興会他、計6件に対して賛助を行った。

Ⅲ 音楽鑑賞活動の普及事業 (公益目的事業3)

1 財団保有の音楽関連資料の活用

松本記念音楽迎賓館のファンクラブの会合や館内見学の折、所蔵音源を使い、高品位の再生装置（TADシステム）での鑑賞を行なった。また館内の音楽資料室を案内した。

2 財団主催コンサート、音楽講座の開催

(1) 主催コンサート「アンサンブルの楽しみを紐解く」

11月28日（金）19時開演 とうま区民センター小ホール 一般4000円

入場者90名。一流プロオーケストラ首席級による演奏を、財団理事・村澤裕子（ピアノ）がコーディネートし、実施。「音鑑ならでは」の内容にすべく、音楽評論家・奥田佳道の解説とフリーアナウンサー・松坂貴久子の進行を加え、弦楽器の組み合わせを変えたプログラムの後、フンメルのピアノ五重奏曲の演奏により、響きの変化や音楽を作るための各演奏者の掛け合いなどを味わう趣向とした。お客様の反応が良く、コンサートの趣旨がよく伝わった。コンサートの認知度を上げるため、読売新聞や地域生協に招待枠を設け、告知した。

(2) 主催音楽講座 「魔笛は危険なオペラ」

6月29日（日）14時開演 松本記念音楽迎賓館Aホール 一般3000円

入場者48名（満席）。昭和音楽大学・名誉教授の築瀬進を講師に迎え、「啓蒙主義時代の社会的、政治的背景下に生まれたモーツァルトの作品」に関わる内容を紹介。昨年度主催の音楽講座「ウイenna・ワルツ、オペレッタの系譜、魅力」に続く、『音楽の都ウィーンにまつわる講座』のシリーズとして講話の後半パートでは、ウィーンで学んだ奥田佳道（前掲）と築瀬進の対談を置き話の展開を広げた。音楽ホールでの開催であり、オペラ「魔笛」で本格デビューしたソプラノ：富永果捺子が「夜の女王のアリア」を披露（ピアノ：富永早那香）。アンケートでは全員「大変満足」であった。

(3) 主催音楽講座 「音楽の都の秘密」 ～ウィーンにまつわる講座第3弾～

11月8日（土）14時開演 松本記念音楽迎賓館Bホール 一般3000円

入場52名（満席）。ウィーンで発声学、医学を学び、音楽にも深く関わってきた野口千代子を講師に迎え、ウィーンでの体験で得た音楽に繋がる事柄、特に地域におけるJ. A. ブルックナーの高い位置付けの発見等について、高級オーディオTADを駆使したブルックナーの作品を楽しみながら講演を行った。後半は奥田佳道（前掲）を交えて、ウィーンに学んだ講師ならではの内容をもって、お客様に語りかけた。アンケートでは全員が期待以上と満足の結果であった。

3 財団後援・協賛コンサート

前年度の公募の経験を活かし、学校教育の前に位置付けられる「幼児（小学校低学年以下）向けの音楽鑑賞」のきっかけを求めるため、ノウハウのある団体に一件5万円でコンサートを委嘱する形で協賛とし、公募を継続。公募締切後、演奏会・音楽講座に関わる「コンサート小委員会」が協賛先を提案し、「選考委員会」が認定。下記3件への協賛を行った。

(1) 11月23日（日）「未来を支えるチャリティコンサート」 主催：テンポル・パート

会場：武蔵野芸術劇場 入場者：31名（内子ども16名）

入場料：大人1500円 子どもは実質無料

内容：演奏集団テンポル・パートのボランティア出演で、子ども参加型のストーリームービーを

使った音楽会。保護者の負担を少なくし、演奏会体験の難しい子どもたちに焦点を当て募集。子どもの入場料は出演者が負っている。

(2) 2月22日(日) 演奏とお芝居「ベートーヴェン物語」

主催：一般社団法人みむみむの森芸術文化振興グループ

会場：松本記念音楽迎賓館Aホール 入場者：22名(内子ども10名)

入場料：大人4000円／子ども3000円(協賛金により値下が可能になった)

内容：これまで音鑑が後援、協賛を続けた団体の演奏会で、全国展開している中の一回。ベートーヴェンに扮した役者による物語の進行と、演じられた場面に縁のある楽曲の演奏(ピアノ)。役者によって語られる内容は、保存されている関連書簡を基にしたもの。

(3) 令和8年5月2日(土) みんなでたのしむ童謡コンサート 主催：あめみやスタジオ

会場：杜のホール(橋本)

入場料：大人2000円／小学生以下未就学児含む 無料

内容：構成は歌手、ピアノ、ヴァイオリン、フルート 各1名。歌手は元アナウンサー。

4 松本記念音楽迎賓館を使った音楽活動の推進

● 音楽に関わる人の育成

例年通り、Aホール等の空いている時間帯を、レッスン利用と称し、使いやすい価格での貸与を通して、音楽愛好家の底辺を広げ、より身近な音楽鑑賞の機会を提供することに結びつく演奏者の育成を続けている。この活動で巣立ち、指導者となったオルガン奏者の龍田優美子が後進を育成する場として、松本記念音楽迎賓館を利用できる形を整えた。

● コンサートの支援

音楽鑑賞を振興する財団として、松本記念音楽迎賓館を他のホールにはない仕組みで運用し、それを活用する主催者や演奏家を通じて、人々の音楽鑑賞の機会を増やしている。

それは、どなたでも参加できる松本記念音楽迎賓館友の会の会員への支援で、入場収入が至らない場合に備え、ホール利用料を入場収入の半額とする共催制度であり、庭園の桜の賑わいに合わせた、平日の特別料金での演奏会の提供である。本年度もこれを実施した。加えて、新型コロナウイルスの影響で、演奏活動に経済的な不安を抱えた演奏家や主催者に向け、令和4年1月から開始した、コンサート特例価格を本年も続けた。この適用対象はお客様からのチケット収入で成り立っているコンサートのみとし、会員制コンサートや演奏技能発表会には適用していない。

上記の策は徐々に一般に浸透し、演奏家や主催者からの好感を得ているが、演奏会でのご利用単価は減少している。

5 チェンバロ音楽普及の支援

松本記念音楽迎賓館の存在がその企画の発端となった、日本チェンバロ協会主催の「チェンバロの日」は、協会の発展に伴う集客数増加により、平成24年以降の松本記念音楽迎賓館での開催から、他会場での開催に移転。本年度から、松本記念音楽迎賓館での開催は一般参加者に向けたチェンバロ協会主催の弾き合い会などのイベントのみとなった。

IV 世田谷区岡本緑地の環境保全事業 (公益目的事業4)

1 岡本地域緑地の保全活動

世田谷区の保存樹林地に指定された松本記念音楽迎賓館の庭園を保全した。

2 緑地保全の啓発活動「みどりの講座」の実施

年3回のみどりの講座は、下記の内容で、NPO法人せたがや水辺デザインネットワークの実施協力で開催した。森林の形態や湧水、水辺の生き物や植物の説明は、ビオトープ施行管理士の資格を持つ前述のNPO法人所属の工藤美紀をはじめ、樹木の専門家の関口克己の現地指導で行われた。子ども参加枠を設けたことにより、ファミリー参加が増え、講座も小学生を意識した内容に切り替えて実施。松本記念音楽迎賓館での開催なので、参加者には音楽体験の機会も併せて提供し、好評であった。

※ () は内数

講座名	開催日	講座内容	受講者数
第1回	4月27日(日) 10時から14時	松本記念音楽迎賓館の植物 崖線樹木の機能と役割	16名 (子9名)
第2回	10月26日(日) 10時から14時	崖線の秋の植物、周辺の水辺と湧き水 水の流れと水辺の生き物	20名 (子9名)
第3回	12月14日(日) 10時から14時	クリスマスリースの素材 で知る地域の 自然	21名 (子6名)

V 松本記念音楽迎賓館諸施設の貸与事業 (収益事業)

収益目的事業は、音楽鑑賞振興財団保有の松本記念音楽迎賓館の諸施設を、公益以外の目的で貸与することで、収益をあげている。例えばドラマ等の撮影、研修、展示会、パーティー等集会利用などを指す。収入の核となるドラマの撮影件数は前年の約6割、その他に、スチール写真利用、音楽番組の収録利用、控室貸しとインタビュールーム貸しが、収益となった。大型ドラマの撮影が少なく、大きな収入には至らなかった。閑静な住宅街にあって、撮影協力いただく近隣との友好関係はよい状態にある。ブライダル業者の専用誌へ会場紹介として掲載するが、結婚披露宴での利用はなかった。